

令和3年度 大阪府中学生チャレンジテスト

結果と分析（東大阪市）

令和3年9月2日（木）に実施された「大阪府中学生チャレンジテスト（3年生）」について、東大阪市の結果及び分析を公表します。

●調査結果について●

本調査で得られる結果は学力の特定の一部であることや、平均正答率のみでは生徒の学力については測ることができないことを踏まえ、本調査から得られたデータをもとに学校・家庭・地域が学力に関する課題を共有し、さらなる連携を深め、生徒の学力向上に取り組むことを目的として分析を行った。

●調査目的●（大阪府教育委員会作成の実施要領より）

- ①大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- ②市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- ③学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ④生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

●調査概要●

実施日	令和3年9月2日（木）
実施対象学年	中学校3年生
実施教科	中学校3年生：国語・数学・英語・理科・社会
調査実施生徒数	中学校3年生 国語：3,122人 数学：3,132人 英語：3,133人 理科：3,135人 社会：3,133人

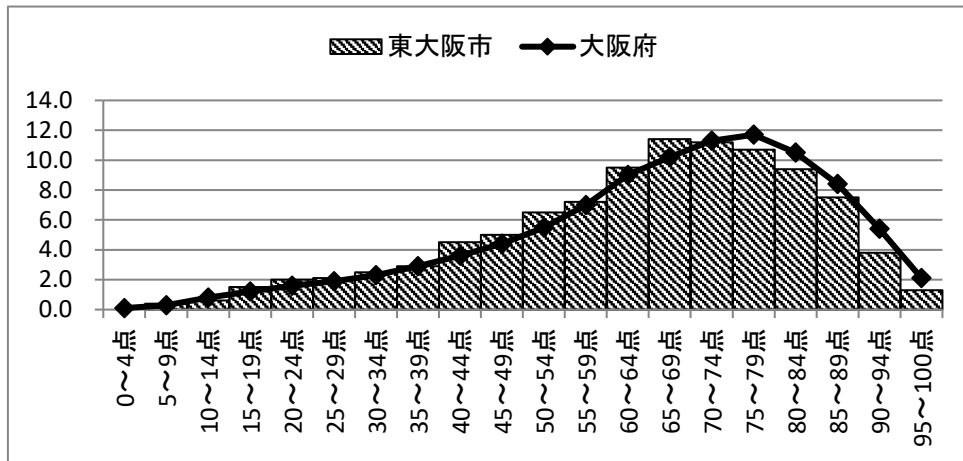
第3学年 国語

■平均得点

63.8点 (東大阪市)

65.8点 (大阪府)

■得点別分布の割合

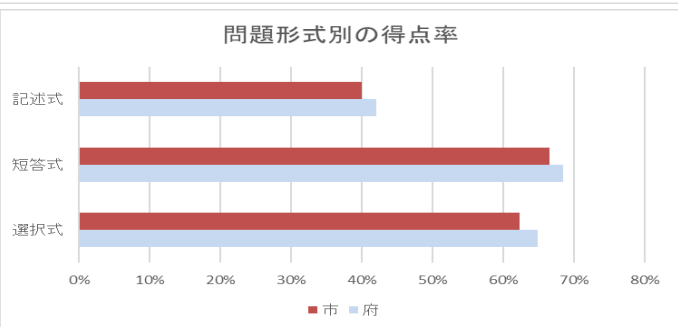
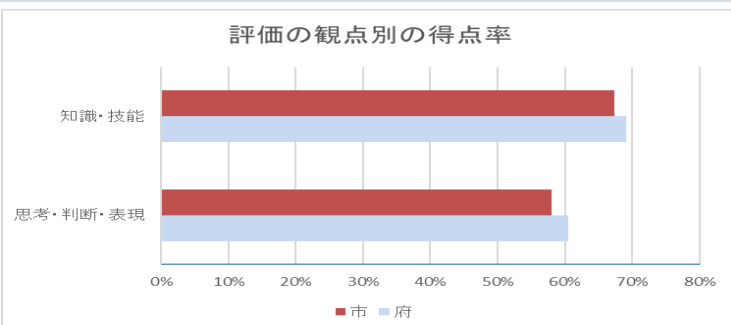
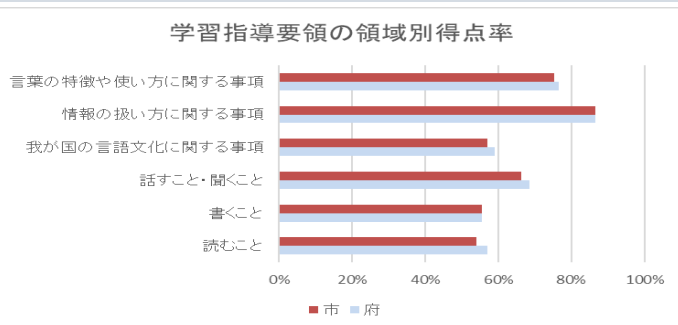


・大阪府の得点分布と比較的類似している。

・65~69点をピークとする山型となっている。

・大阪府の分布に比べ、75点以上の分布が少ない。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率



学習指導要領の領域別得点率では、6領域のうち4領域が大阪府の得点率を下回っている。中でも「読むこと」については差が大きい。一方で「情報の扱い方に関する事項」や「書くこと」については大阪府の得点率と同率になっている。

■特徴的な傾向と対策

- 言葉の特徴や使い方に関する事項にあたる、文脈に即して漢字を「正しく読む」「正しく書く」を問う設問1(2)(3)においては、「閉幕(ヘイマク)」や「挨拶(アイサツ)」を読むことが、大阪府の正答率より高い。しかし、「ボウエキ(貿易)」「ソナえる(備える)」「テイキョウ(提供)」を書くことが大阪府の正答率を下回っている。【対策】これまでに引き続き、日々の授業で言語活動を設定したり、反復練習を充実させたりすることで、短期的な記憶で留まらないよう、中長期的な定着を図ることが必要と考えられる。
- 思考力・判断力・表現力等を問う設問の中でも「読むこと」の領域において課題が見られる。文章全体と部分との関係を考えて内容の理解に役立てたり、文章の内容をとらえて筆者の考えを理解することが大阪府の正答率より低い。【対策】自分の意見や感想を自由に書くことはできるが、文章のどの部分を根拠に考えたのか、叙述に基づいて相手を説得できるような発言や解答ができるように指導する必要がある。

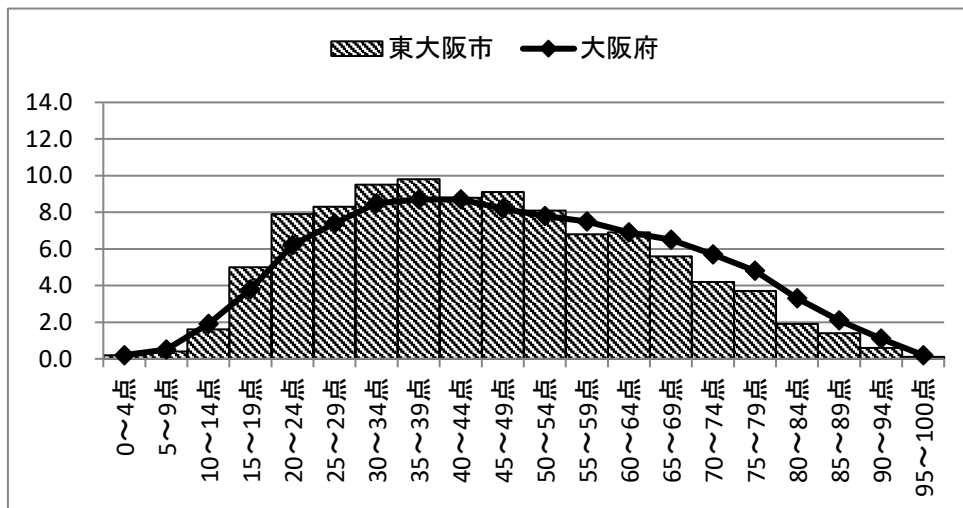
第3学年 社会

■平均得点

45.2点（東大阪市）

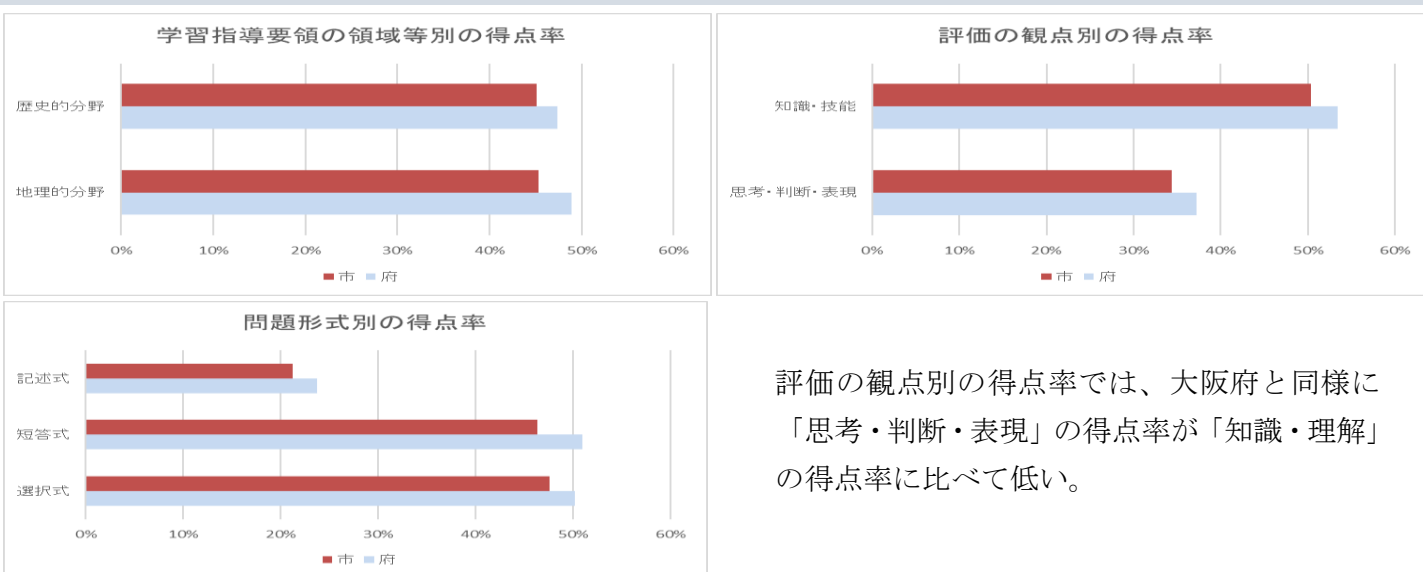
48.2点（大阪府）

■得点別分布の割合



- ・大阪府の得点分布と比較的類似している。
- ・35～39点がピークとなるならかな山型となっている。
- ・大阪府の分布と比較して、55点以上の分布が少なく、15～44点の分布が多くなっている。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率



評価の観点別の得点率では、大阪府と同様に「思考・判断・表現」の得点率が「知識・理解」の得点率に比べて低い。

■特徴的な傾向と対策

- 設問 3(5)②「再生可能エネルギーによる発電に関して、植物や動物に由来する物質から生まれるエネルギーの名前を書く」設問（解答：バイオマス発電）は、全設問中で大阪府との正答率の差が最も大きい（東大阪市 20.8%・大阪府 34.7%）。【対策】日本と日本以外の国において、どのようにして発電を行っているかの記述を基に、エネルギーの名前を読み取る設問であり、自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉える技能が必要となる。また、グローバル化する国際社会において、地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食糧問題、居住・都市問題などに関わる課題を取り上げ、知識を身に付ける必要がある。
- 記述式問題（全2問）の無解答率が高く、自分の考えを書くことに課題がある〔2(3)①(ii) 35.1%・3(3) 31.1%〕。【対策】社会的な思考・判断・表現の理解を深めるため、社会的な諸事情を題材に、課題を追究したり解決したりする活動が必要になる。様々な情報から必要な情報を読み取る場面、得た情報を多面的・多角的に考察する場面、考察結果を発表する場面などを多く取り入れることが必要とされる。

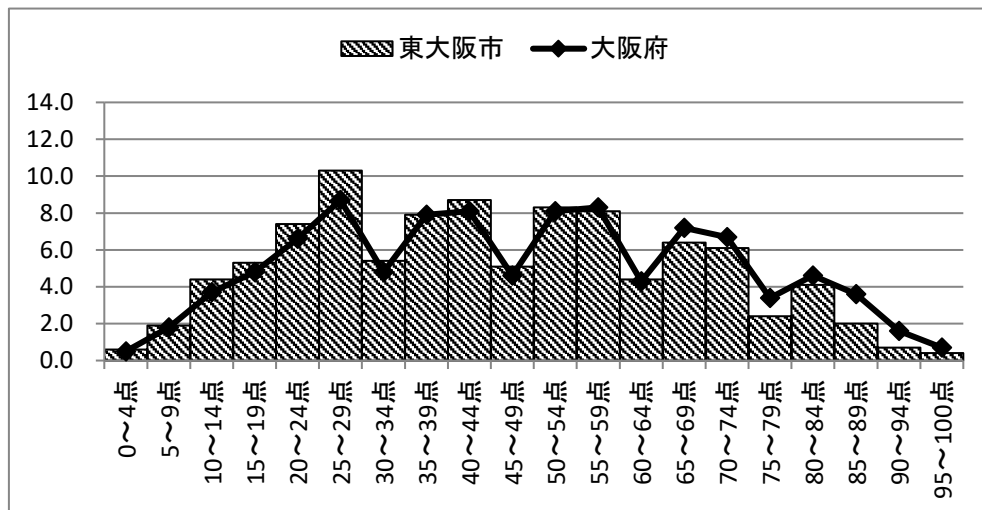
第3学年 数学

■平均得点

45.0点（東大阪市）

48.1点（大阪府）

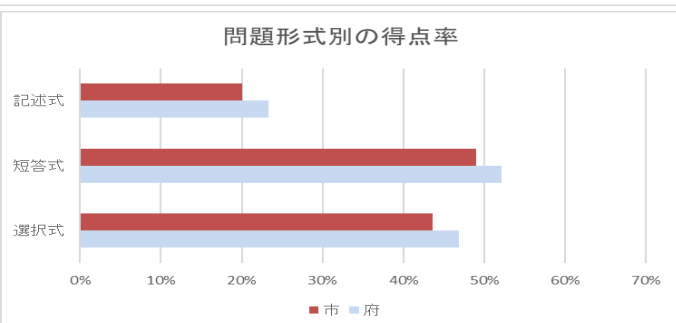
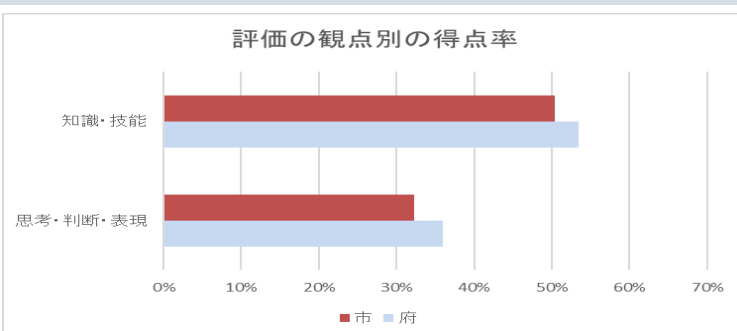
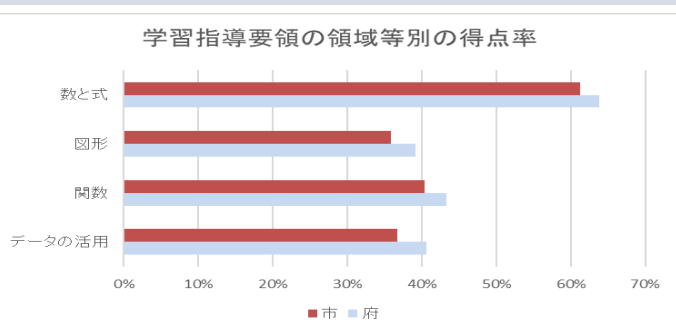
■得点別分布の割合



・グラフの分布にまとまりがなく、いくつもグラフの山ができています。

・大阪府の分布と比較して65点以上の分布が少ない。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率



学習指導要領の領域等別の得点率については、4領域の中でも「数と式」が大阪府の結果と同様に、東大阪市の得点率も高く、60%を超えている。

■特徴的な傾向と対策

- 設問 8(3)②「表や度数分布多角形から読み取れることをすべて選ぶ」ことができるかどうかを見取る設問は、全設問中、大阪府との開きが最も大きい（東大阪市 23.9%・大阪府 29.8%）。【対策】与えられた情報から必要な情報を選択し資料の傾向を的確に捉え、事象に即して解釈することが重要である。
- 設問 9(3)連立方程式を解いて、グラフの3回目の交点の x 座標を求める設問は全設問中、無解答率が最も高い（東大阪市 42.5%・大阪府 39.8%）。事象を数学的に解釈し、グラフの交点から2つの面積が等しくなる時間を求めることができるかどうか重要である。【対策】身の回りの事象を普段から数式化することや数学的な見方、考え方で考察するような学習を授業で取り入れることが重要である。

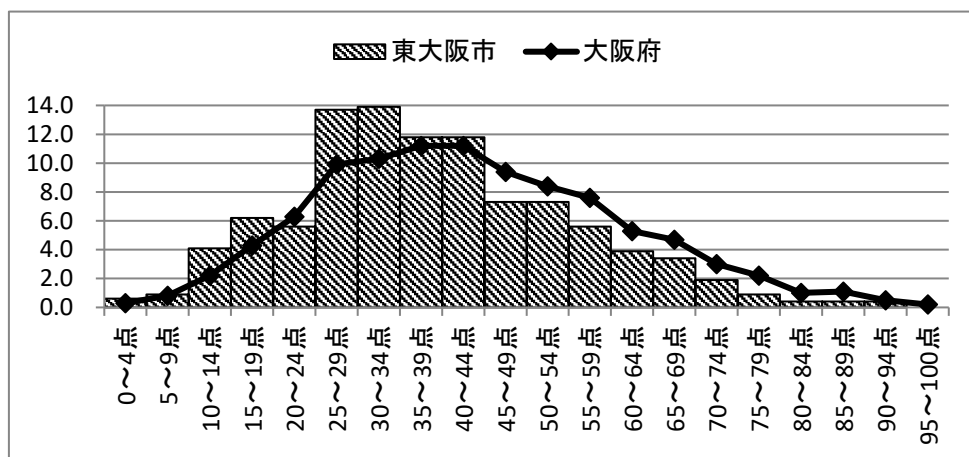
第3学年 理科A

■平均得点

38.4点（東大阪市）

43.2点（大阪府）

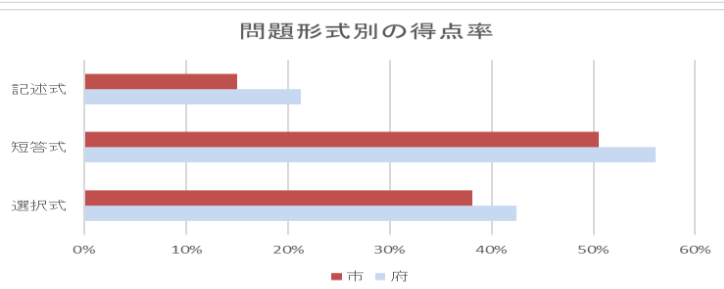
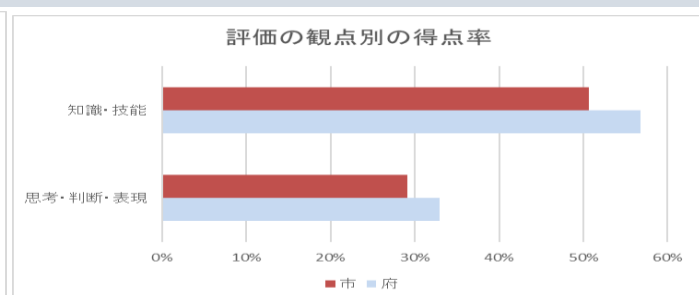
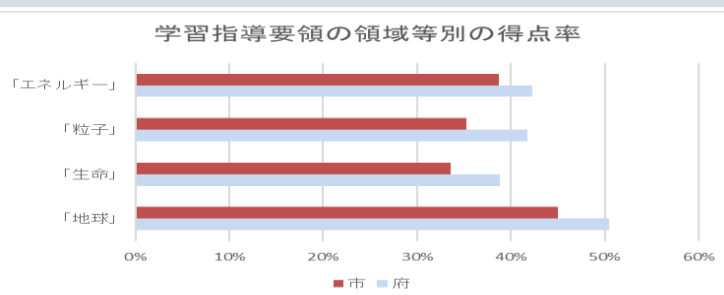
■得点別分布の割合



・30～34点がピークとする山型となっている。

・大阪府の分布と比較して、45点以上の分布が少ない。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率



学習指導要領の領域等別の得点率では、4領域全てにおいて、大阪府の得点率を下回っているが、「エネルギー」の領域については、大阪府との差が最も小さい。

■特徴的な傾向と対策

●設問2(2)「硝酸カリウム水溶液の質量パーセント濃度を求める」設問（正答率：東大阪市23.1%・大阪府28.1%）の正答率が低い。数式と答えは、 $5 \div 15 = 0.33 \dots$ 答え33%となり、基本的な知識・技能を習得しておれば、正答できる設問である。【対策】このことから、「水溶液の質量パーセント濃度」を求める式を割合の計算として単に暗記するのではなく、どうしてそのような式になるのかということ「ふり返り」等で、生徒一人ひとりが確実に理解していることを確かめることが求められる。

●設問2(4)「時間が経過して容器の底付近の水溶液の濃度が大きくなると考えた場合に、水溶液の密度にどのようなちがいが生じるかを30字以内で書く」設問（正答率：東大阪市21.0%・大阪府30.2%）では、理科の知識・技能だけではなく、約600字の設問を読む読解力やグラフを読み解く力等に課題が見てとれる。【対策】理科においても、実験後に結果の分析や感想を書くなどの言語活動を適宜取り入れ、言語能力や情報活用応力を育成することが重要である。

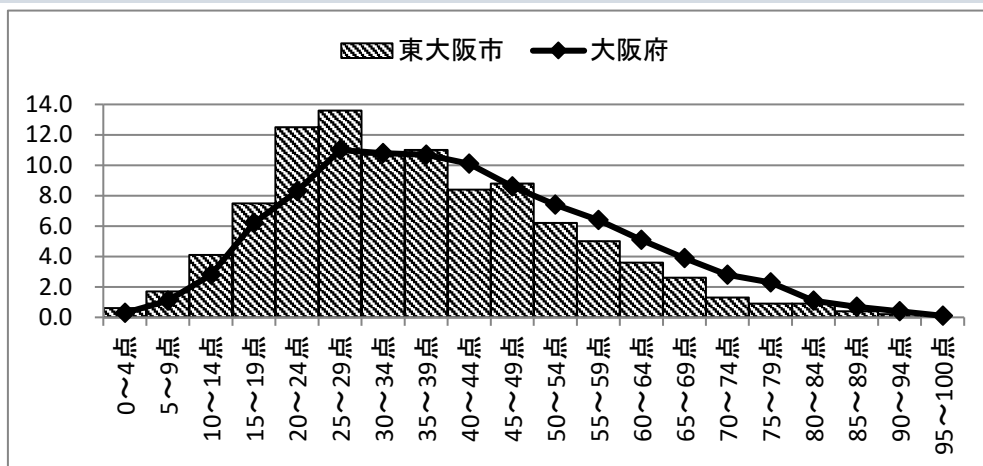
第3学年 理科B

■平均得点

36.6点（東大阪市）

41.0点（大阪府）

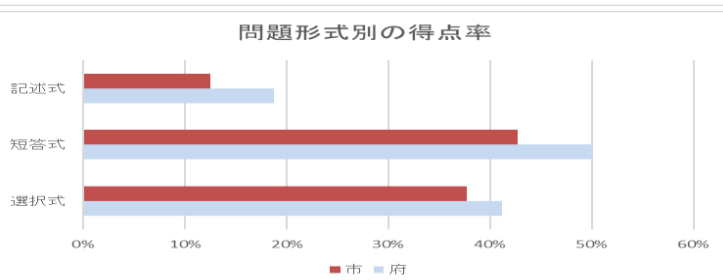
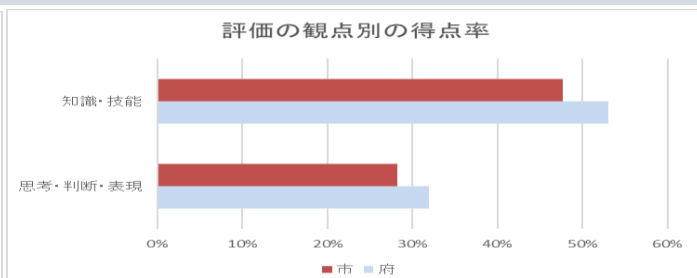
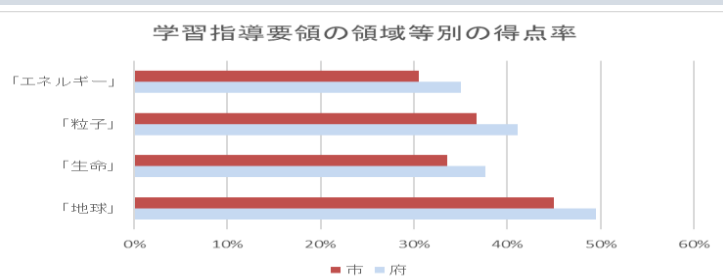
■得点別分布の割合



・25～29点がピークとする山型となっている。

・大阪府の分布と比較して、50点以上の分布が少ない。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率



学習指導要領の領域等別の得点率では、4領域全において、大阪府の得点率を下回っている。「エネルギー」の領域が最も得点率が低い。

■特徴的な傾向と対策

- 設問2(2)「硝酸カリウム水溶液の質量パーセント濃度を求める」設問（正答率：東大阪市21.7%・大阪府25.7%）の正答率が低い。数式と答えは、 $5 \div 15 = 0.33 \dots$ 答え33%となり、基本的な知識・技能を習得しておれば、正答できる設問である。【対策】このことから、「水溶液の質量パーセント濃度」を求める式を割合の計算として単に暗記するのではなく、どうしてそのような式になるのかということ「ふり返り」等で、生徒一人ひとりが確実に理解していることを確かめることが求められる。
- 設問2(4)「時間が経過して容器の底付近の水溶液の濃度が大きくなると考えた場合に、水溶液の密度にどのような変化が生じるかを30字以内で書く」設問（正答率：東大阪市18.9%・大阪府27.1%）では、無答率も非常に高い。（無答率：東大阪市40.0%・大阪府28.7%）この設問では、理科の知識・技能だけではなく、約600字の設問を粘り強く読む読解力やグラフを読み解く力等が必要とされる。【対策】理科においても、実験後に結果の分析や感想を書くなどの言語活動を適宜取り入れ、言語能力や情報活用能力を育成することが重要である。

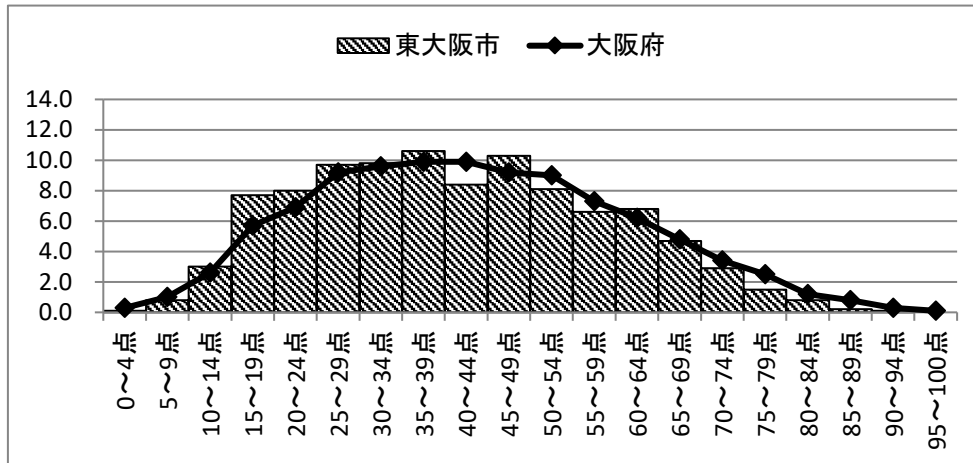
第3学年 理科C

■平均得点

40.9点（東大阪市）

43.0点（大阪府）

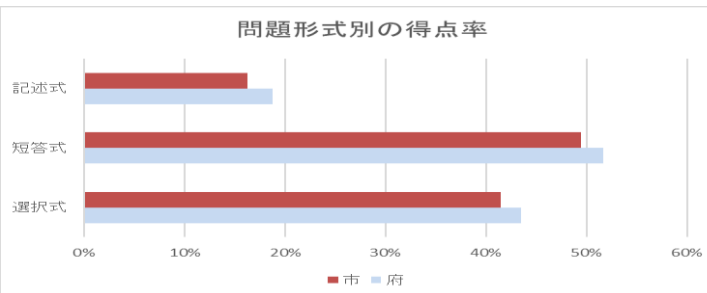
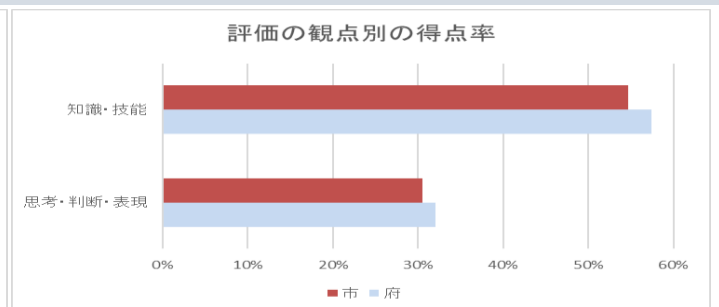
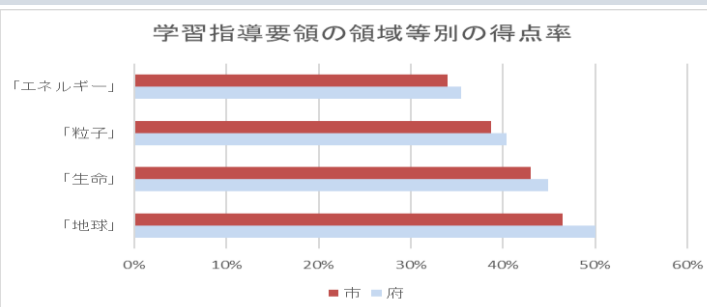
■得点別分布の割合



・大阪府の得点分布と類似している。

・大阪府の分布と比較して、70点以上の分布が少なく、10点～39点の分布が多くなっている。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率



学習指導要領の領域等別の得点率では、4領域全てにおいて、大阪府の得点率を下回っている。なかでも「地球」の領域については、大阪府との差が最も大きい。

■特徴的な傾向と対策

●設問 2(2)「硝酸カリウム水溶液の質量パーセント濃度を求める」設問（正答率：東大阪市 26.3%・大阪府 26.7%）の正答率が低い。数式と答えは、 $5 \div 15 = 0.33 \dots$ 答え 33%となり、基本的な知識・技能を習得しておれば、正答できる設問である。【対策】このことから、「水溶液の質量パーセント濃度」を求める式を割合の計算として単に暗記するのではなく、どうしてそのような式になるのかということ「ふり返り」等で、生徒一人ひとりが確実に理解していることを確かめることが求められる。

●設問 2(4)「時間が経過して容器の底付近の水溶液の濃度が大きくなると考えた場合に、水溶液の密度にどのようなちがいが生じるかを 30 字以内で書く」設問（正答率：東大阪市 25.6%・大阪府 27.3%）では、理科の知識・技能だけではなく、約 600 字の設問を粘り強く読む読解力やグラフを読み解く力等が必要とされる。【対策】理科においても、実験後に結果の分析や感想を書くなどの言語活動を適宜取り入れ、言語能力や情報活用応力を育成することが重要である。

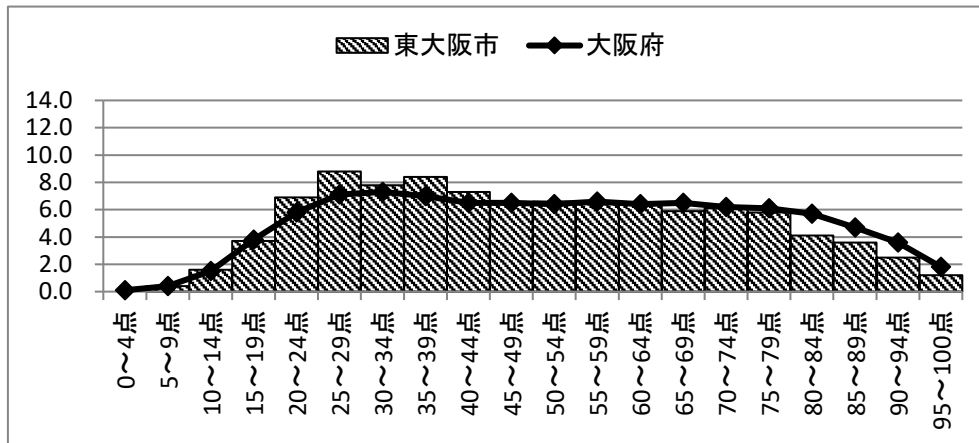
第3学年 英語

■平均得点

50.3点（東大阪市）

53.2点（大阪府）

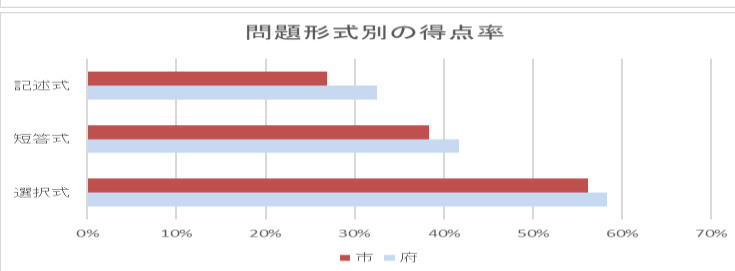
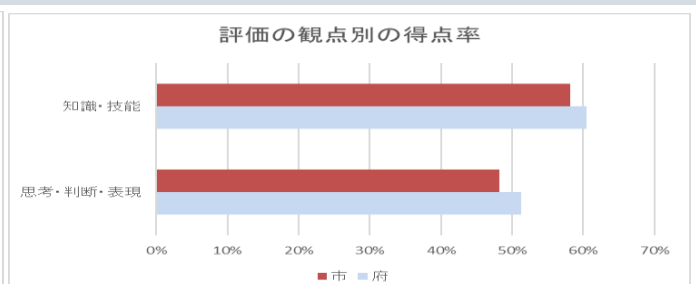
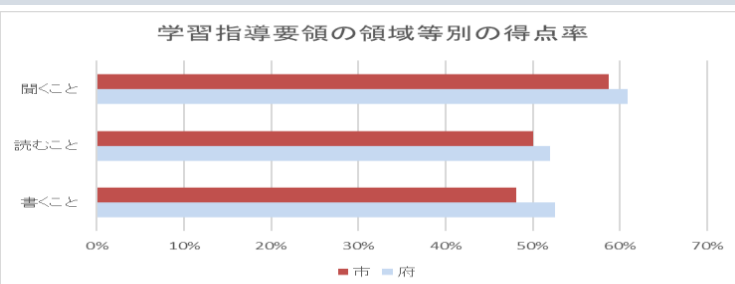
■得点別分布の割合



・44点以下の生徒の割合が、大阪府の割合と比較して多い。

・大阪府の分布と比較し、80点以上の分布が少ない。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率



学習指導要領の領域別得点率では、「書くこと」の領域が、他の領域に比べ低く、大阪府との差が最も大きい。

■特徴的な傾向と対策

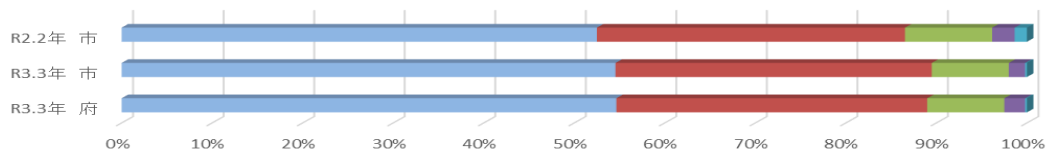
●設問7は、英文を読み、絵を見て内容を理解し、指示された語数の英語を入れ、対話文を完成させる問題である。7(1)は大阪府との正答率の差が最も大きく（東大阪市25.3%・大阪府35.4%）、7(2)は正答率が最も低い（東大阪市15.1%）。【対策】与えられた語句や絵を基に場面や状況を理解する力、対話を継続するために適切に表現する力を育成するため、目的・場面・状況に応じて自分の気持ちや考えを伝え合う言語活動を継続して行っていく必要がある。また、日常的な話題について表現するための語彙を、4技能を使った活動を通じて使用しながら、定着させる必要がある。

●設問9は資料と会話文を読んで、内容を理解する問題である。9(1)の、内容について日本語で説明する問題は無解答率が最も高い（東大阪市31.1%）。日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の必要な情報を読み取る力に課題がある。【対策】「広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章」などの教材を、どんな情報を得るために読むのかを意識して『読む』活動を行っていく必要がある。

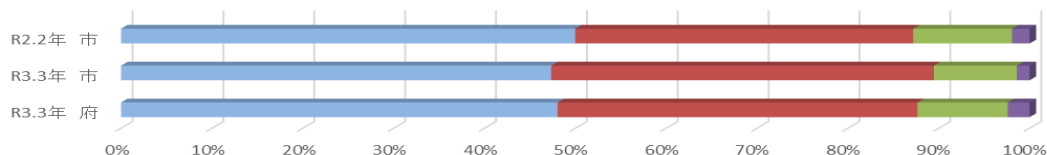
アンケート結果

■中学校3年生（同一集団の中学校2年時からの変化）

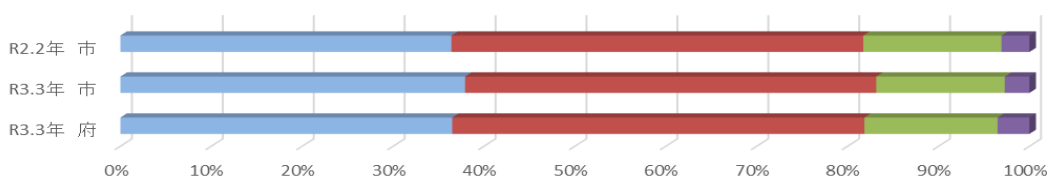
授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。



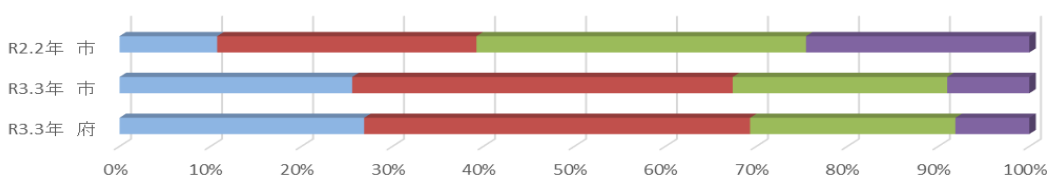
授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。



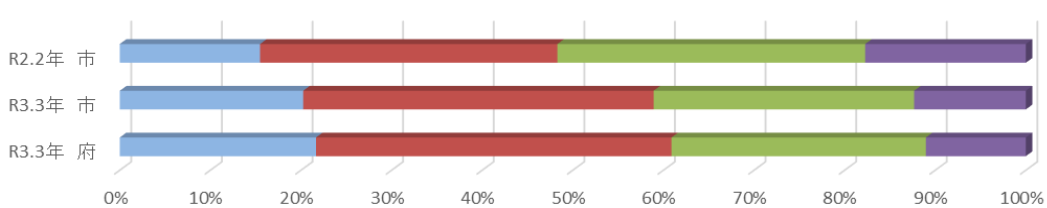
授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。



授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。



自ら課題を見つけて、家で勉強している。



■ 当てはまる

■ どちらかといえば、
当てはまる

■ どちらかといえば、
当てはまらない

■ 当てはまらない

■ 無回答

■特徴的な傾向と対策

- 「授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。」 「授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。」 「授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。」について令和2年度の結果と比べると、それぞれの肯定的回答の割合が若干増加し、大阪府の平均に近づいている。児童生徒が主体となって授業に取り組めるような授業改善が進んだものと考えられる。
- 「授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。」については、令和2年度の結果と比べると、大きく肯定的回答の割合が増加している(R2_38.7% R3_67.2%)。1人1台端末の整備が進み、児童生徒が積極的に授業で利活用している様子が伺える。引き続き子どもたちが授業の中で主体的に調べ学習に取り組めるような課題設定、授業改善が重要である。
- 「自ら課題を見つけて、家で勉強している。」についても、令和2年度の結果より大きく肯定的回答の割合が増加している(R2_47.6% R3_58.8%)。引き続き学校では、子どもたちへ自主学習の意義や取組み方等を伝え、併せて家庭での学習習慣の重要性を保護者、地域に伝えていくことが重要である。